

令和8年度入学者選抜試験問題（第2回選抜）

—山形大学大学院社会文化創造研究科—

（社会文化システムコース）

筆記試験（日本語）

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、5ページあります。
- 3 試験が開始されたら、直ちに答案用紙に受験番号を記入してください。
- 4 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

次のページから問題冊子の本文が始まります。

以下の設問に、日本語で答えなさい。

注意点：論説文の文体で書くこと。要点を箇条書きにするのではなく、文章の形でまとめること。

設問Ⅰ 次の文章は、^{のぶはらゆきひろ}信原幸弘『「覚える」と「わかる」 知の仕組みとその可能性』（筑摩書房、2022年刊）の一部である（78～83ページ 表記を一部変更した）。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

非公開

非公開

非公開

- 問1. 文章中の二重下線部 a～e の読みをひらがなで書きなさい。(配点5点)
- 問2. 下線部①「読み」について、この文章の将棋の事例において使われる「読み」という言葉とほぼ同じ意味で置き換えられる漢字2字の言葉を書きなさい。(配点3点)
- 問3. 下線部②「そのような重要な役割」について、〈論証の重要な役割〉とは何か。その内容を40～60字で書きなさい。(配点6点)
- 問4. 論証における〈直観の働き〉および〈読み〉とはどのようなものか。この文章の筆者が述べるそれらの内容を120～140字で書きなさい。(配点8点)
- 問5. 議論における〈直観の働き〉および〈読み〉とはどのようなものか。この文章の筆者が述べるそれらの内容を100～120字で書きなさい。(配点8点)

設問Ⅱ 次の文章は、小川糸^{おがわいと}『あつあつを召し上がれ』（新潮社、2014年刊）に掲載された短編小説「季節はずれのきりたんぽ」の一部である（129～132ページ 表記を一部変更した）。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

非公開

非公開

問6. 下線部③「下手な嘘をつき通した」とあるが、母は何を隠し、どのような嘘をついていたと考えられるか。それらの内容を30～40字で書きなさい。（配点5点）

問7. 下線部④「医者の見立て違いではないかと疑っていた」とあるが、医者はどのような見立てをし、私はその何を疑っていたと考えられるか。それらの内容を40～60字で書きなさい。（配点5点）

問8. 下線部⑤「実家をたずねた」とあるが、私はどういう目的で実家をたずねたのか。その内容を本文中の語句を用いて30～40字で書きなさい。（配点5点）

問9. 以下の㉗～㉚は本文中の内容と合っているかどうか。答案用紙の適切な方に丸をつけて答えなさい。（配点5点）

- ㉗ 私は結婚してすぐにハワイで新婚旅行をしていた。
- ㉘ 父が死んだのは去年の暮れのことだった。
- ㉙ 私の夫は土日は休みではなかった。
- ㉚ 母は最近ではすっかり元気になったと私は判断した。
- ㉛ 私と父との関係は良好だった。